

## エコ. エコ (ecology. economy)

特定非営利活動法人 エコ. エコ (自然の保護と理解の輪を広げる活動を行なっています)

## ニホンカナヘビ

ナチュラリスト 斎藤 創

ニホンカナヘビは草原や林縁の草地や藪地などに生息する日本固有のトカゲの1種です。

埼玉県内にはヒガシニホントカゲも分布していますが、本種は鱗のツヤがなく、体表がザラザラしていることが大きな特徴です。また、幼体はヒガシニホントカゲのように尾が青くならないことから、生きもの



ニホンカナヘビ (埼玉県:準絶滅危惧種)  
の抵抗を和らげているといわれています。

に詳しくない人でも容易に識別することができます。主に昼間に活動し、肉食という性質から、小さな昆虫やクモ、ワラジムシなどを食べて過ごします。埼玉県の平野部では春季に交尾期をむかえ、4月頃にフィールドを歩くと、2頭のニホンカナヘビがもつれ、1頭が後ろ脚の付け根に噛みついている姿をよく見かけます。この光景は一見ケンカのように見えますが、オスがメスの後ろ脚付け根付近から出るフェロモンの確認をし、何度もその部分を噛むことでメスの交尾へ



ヒガシニホントカゲ 身を守るために死んだふり

交尾を終えたメスは初夏から夏に産卵し、長さ約1cmの卵を1~6個ほど、適度に湿った土のある草の根本に産み付けます。この時、ヒガシニホントカゲのように孵化するまでメスが卵を守ることはありません。卵は地表や雨から水分を吸収しながら成長し、2ヵ月ほどで孵化、中から5cmくらいの幼体が生まれます。

そんなニホンカナヘビですが、埼玉県の希少種情報を網羅したレッドデータブックの改訂版である「埼玉県レッドデータブック動物編2018」が発行された際、「準絶滅危惧」に選定、すなわち希少種として掲載されました。本種は塀などの壁や、低木にも登る性質から、都市化が進んだ地域でも人工的な分断要素に強く、ヒガシニホントカゲよりも活発に遺伝的交流が行われ、絶滅の可能性は低いとされました。それでも今、こうして希少種に選定されたことは、生息地の消失や自然環境の質の低下(外来種問題、温暖化、薬剤使用による食物資源の減少などの要因が複雑に関係すると考えられる)を示唆しているといえます。

本種の個体群を維持するためには、多くの昆虫やクモが生息していることが必要です。そして時には、モズなどの鳥に捕食されるなど、高次消費者の食物として生態系の中で重要な役割を担っていることは間違いないません。かつての普通種がその名の通り普通に生息し、食う、食われるの関係が当たり前のように継続されるには、地域ごとに本来の自然環境を守ることが望まれます。



モズのはやにえになったニホンカナヘビ



## 今後の予定

# 2023 年度後期

半年ごとのカレンダーでエコ・エコの行事をおしらせします。要申し込み

## 環境保全活動

10~3月

9時開始

集合場所 トラスト1号地

あづまや

## 2 時間程度の活動

道具等はこちらで準備  
帽子、長袖、長ズボン  
汚れても良い服装で

觀察會里山 .com

実施する場合は  
2週間前にホーム  
ページで告知します



ホームページ  
<http://eco-minuma.com/>



## 10年振り返り動画 自然は友達

チャンネル登録で  
エコ・エコの活動  
を支援してください



NPO 法人エコ・エコは生物多様性の保たれる空間が広がることを活動の目的に

活動を御支援ください NPO法人 エコ・エコ

寄付送金先 工ヨ.工ヨ 郵便振替 0110-0-711005

問い合わせ先 メール kaerunomaru@gmail.com

Tel&Fax 048-874-9811 (加倉井)